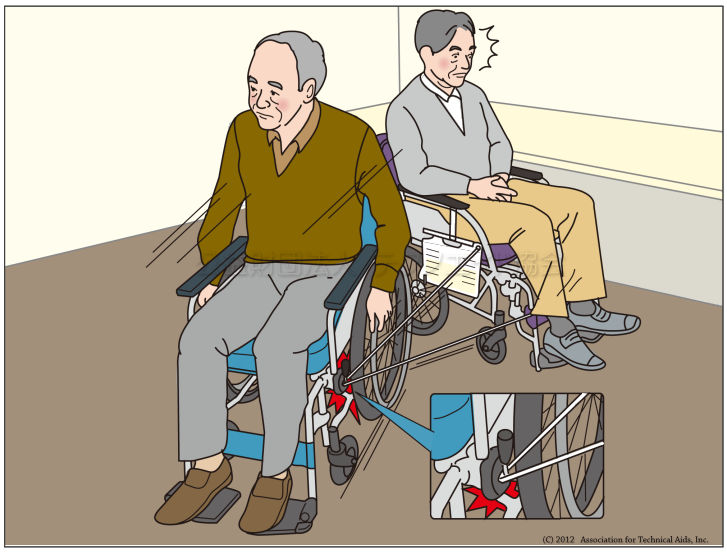
Case：133

導尿チューブがブレーキレバーに引っかかって外れそうになる

場面の説明

導尿チューブがブレーキレバーに引っかかっていることに気づかず走行した



利用シーン	移動
主な利用場所	リビング・居間 ダイニング・食堂 廊下
介護保険の種目	車いす
分類コード (CCTA95)	122106 (後輪駆動式車いす)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

カテーテルが抜けてしまうなど大きな事故につながりかねない事例で、他の人が操作する車いすだけではなく、手すりや家具類に引っかかってしまうことも考えられます。導尿チューブをはじめ、酸素ユニットや呼吸器などのチューブ類は、いずれも命に係わる大切な役割を果たしています。これらのチューブ類が車いすの外側にはみ出した状態で放置しないよう、紐などで処理しておくことが大切です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：導尿チューブにブレーキレバーが引っかけていることに気づいていない
人：導尿チューブが引っかかり易い状態で放置していた
モノ：ブレーキレバーはひも状のモノを引っかけ易い
環境：他に通れる通路がなかった

Copyright 2025 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.